

平成20年度 全国学力・学習状況調査結果について

1 本市の実施状況

○調査実施年月日 平成20年4月22日(火)

○実施学年
小学校 16校 第6学年(児童数 1261名)
中学校 9校 第3学年(生徒数 916名)

2 本市の調査結果の概要

本市の各調査教科の平均正答率は、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに、A問題・B問題のすべてにおいて、全国平均及び神奈川県平均を上回っている。

国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」、算数・数学の「数と計算(数と式)」「量と測定」「図形」「数量関係」等の学習指導要領の領域別、及び「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「知識・理解」等の評価の観点別、「選択式」「記述式」等の問題形式別の平均正答率をみた場合にも、すべての項目で、全国平均及び神奈川県平均を上回っている。

設問別に見た場合、国語 A 問題では平均正答率が 80%未満で全国の値より低いものが小学校 4 問中学校 1 問、国語 B 問題では平均正答率が 70%未満で全国の値より低いものが小学校 1 問中学校 0 問である。算数・数学では、A 問題で平均正答率が 80%未満で全国の値より低いものは小中学校ともに 0 問、B 問題で平均正答率が 70%未満で全国の値より低いものは小中学校ともに 0 問である。

全国・神奈川県・本市ともに低い平均正答率となっている設問が、各教科ともに 5～6 問程度みられるが、本市の結果は、ほとんどの設問で全国及び神奈川県の値を上回っている。

各教科別の平均正答率・中央値・標準偏差及び正答数の分布状況は、次ページ以降に示されたとおりである。

なお、使用している語句の用語説明は、次のとおりである。

平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

中央値 … 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと

平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。

標準偏差 … 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値

標準偏差が 0 とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味する。

3 学力調査集計結果にみられる解答状況

(1) 小学校の正答率・無解答率

教科名	問題数	正答率		無解答率	
		A問題80%未満 B問題70%未満 全国平均よりも低い	A問題60%未満 B問題50%未満 全国・県・本市ともに低い	全国・県・本市ともに 無解答率10%以上	左記の設問中、本市の 無解答率が全国・ 県より大きい
国語A	18問	4問	6問	7問	1問
国語B	12問	1問	5問	7問	0問
算数A	19問	0問	2問	1問	0問
算数B	13問	0問	6問	3問	0問

* 国語A、国語Bの全国平均より低い問題は、正答率で1.5～5.4ポイント下回っている。

* 全国・県・本市ともに低い正答率となっている問題では、本市の結果はほとんどの問題が、全国及び県の結果を上回っている。

(2) 中学校の正答率・無解答率

教科名	問題数	正答率		無解答率	
		A問題80%未満 B問題70%未満 全国平均よりも低い	A問題60%未満 B問題50%未満 全国・県・本市ともに低い	全国・県・本市ともに 無解答率10%以上	左記の設問中、本市の 無解答率が全国・ 県より大きい
国語A	34問	1問	5問	3問	0問
国語B	10問	0問	1問	4問	0問
数学A	36問	0問	6問	4問	0問
数学B	15問	0問	4問	4問	0問

* 国語Aの全国平均より低い問題は、正答率で2.4ポイント下回っているが、県の結果を上回っている。

* 全国・県・本市ともに低い正答率となっている問題では、本市の結果はほとんどの問題が、全国県の結果を上回っている。

(3) 正答率が低い設問概要と無解答率が高い設問概要

小学校の設問

教科名	A問題の正答率が80%未満、 B問題の正答率が70%未満 で、全国平均より低い設問概要	A問題の正答率が60%未満、 B問題の正答率が50%未満 で、全国・県・本市ともに低い設 問概要	全国・県・本市ともに 無解答率が10%以上の設問概 要(【 】は、本市の無解答率が 全国・県より大きい)
小学校 国語A	・漢字を読む(勢いよく流れる) ・漢字を書く(よぼうする) ・漢字を書く(おうふくする) ・正しい漢字を選択する(同音 異義語、開場)	・漢字を書く(おうふくする) ・漢字を書く(同音異義語、開 場) ・文章を読み返して、書き直し たほうがよい理由と方法を選択 ・グラフから分かったことをメモ に取る ・文章中の表現について言い換 えた部分を抜き出す ・筆者が伝えたかったこととして 適切な内容を選択する	・漢字を書く(よぼうする) ・漢字を書く(同音異義語、会 場) ・漢字を書く(同音異義語、開 場) ・グラフから分かったことをメモ に取る ・学校を紹介する文章に適切な 見出しを書く ・文章中の表現について言い換 えた部分を抜き出す 【・筆者が伝えたかったこととし て適切な内容を選択する】
小学校 国語B	・インタビューの仕方や内容に ついて評価した理由を書く	・図書館だよりから、6年生が読 書相談できる曜日と時間を書く ・グラフから分かったことを基 に、テーマに即して自分の考え を書く ・図書館だよりの内容を案内状 に書き換える(案内状の題名) ・図書館だよりの内容を書き換 える(行事の内容) ・2つの意見文を比べて読み、 文章の組み立てとして適切な 内容を選択する	・インタビューの仕方や内容に ついて評価した理由を書く ・わるいことという場面の様子 をとらえ、おかあさんグマの心 情を書く ・グラフから分かったことを基 に、テーマに即して自分の考え を書く ・図書館だよりの内容を案内状 に書き換える(案内状の題名) ・図書館だよりの内容を書き換 える(行事の内容) ・2つの意見文を比べて読み、 文章の組み立てとして適切な 内容を選択する。
小学校 算数A	・なし	・小数の乗法及び除法の式で、 計算の答えが被乗数、被除数 より大きくなるものを選ぶ ・面積が約150平方センチメー トルであるものを選ぶ	・ひし形を2本の対角線で切っ たときにできる三角形の名前を 答える
小学校 算数B	・なし	・どの2つの戸棚を選んで置い ても、ドアを開閉するとドアが戸 棚に当たってしまうわけを書く ・米の生産額について、割合が 減っているから生産額が減って いるという考え方が正しいかど うかを判断しそのわけを書く ・長方形と四角形について、各 頂点を中心に円の一部分をかき、 それらをあわせた面積の関係を とらえ、判断のわけを書く ・教室の掃除をする週の求め方 を基に、校庭の掃除をする週の 求め方を書く ・身長の変化を表す折れ線グラ フの一部分と身長の伸びを表 す棒グラフの一部分を比べて、 その違いを書く ・与えられた折れ線グラフが誰 の身長の変化を表したものかを 考え、当てはまる人の身長の 伸びを表す棒グラフを選ぶ	・どの2つの戸棚を選んで置い ても、ドアを開閉するとドアが戸 棚に当たってしまうわけを書く ・身長の変化を表す折れ線グラ フの一部分と身長の伸びを表 す棒グラフの一部分を比べて、 その違いを書く ・与えられた折れ線グラフが誰 の身長の変化を表したものかを 考え、当てはまる人の身長の 伸びを表す棒グラフを選ぶ

中学校の設問

教科名	A問題の正答率が80%未満、 B問題の正答率が70%未満 で、全国平均より低い問題概要	A問題の正答率が60%未満、 B問題の正答率が50%未満 で、全国・県・本市ともに低い問題概要	全国・県・本市ともに 無解答率が10%以上の設問概 要(【 】は、本市の無解答率が 全国・県より大きい)
中学校 国語A	・歴史的仮名遣いを現代仮名 遣いに直す	・意見文に対する評価として適 切なものを選択する ・茶わんの湯気の渦の様子に ついて書かれた一文を本文 中から探して書く ・見やすく書かれている伝票の 説明として適切なものを選択 する ・漢和辞典で調べた意味の中 から、ふさわしいものを選択 する ・国語辞典で調べたことをも とに、慣用句の意味を書く	・記述の一部を文章中の他の 言葉を使って書き換える ・漢字を書く(よそくできない) ・国語辞典で調べたことをも とに、慣用句の意味をかく
中学校 国語B	・なし	・別の資料に書かれている新し い情報を選び出し、条件にした がって書き換える	・別の資料に書かれている新し い情報を選び出し、条件にした がって書き換える ・登場人物の行動を読み取り、 付箋に整理して書く ・登場人物が大切にしていると 考えられることを四字熟語と関 連付け、80字以上120字以内で 書く ・「全然」の使い方について自分 の考えを、根拠を明確にして7 0字以上100字以内で書く
中学校 数学A	・なし	・ $3a+4b$ で表される事象を選ぶ ・垂線の作図で利用されている 図形の性質を選ぶ ・円錐と円柱の体積を比較し、 正しい図を選ぶ ・ n 角形の内角の和を求める式 で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ ・反比例のグラフから式を求め る ・一次関数の表から式を求め る	・数量の関係を一元一次方程 式で表す ・反比例のグラフから式を求め る ・一次関数の式からグラフの傾 きを求める ・一次関数の表から式を求め る
中学校 数学B	・なし	・男性と女性で上腕骨の長さが 等しいとき、身長の違いが大き くなる方を選び、その理由を説明 する ・2桁の自然数と、その十の位 と一の位の数を代入した数の 和が11の倍数にある説明を 完成させる ・高さの増大に伴って、気温が 一定の割合で減少することか ら、高さと気温の関係を調べ ・表やグラフをもとに、富士山の 6合目の気温を求める方法を説 明する	・2桁の自然数と、その十の位 と一の位の数を代入した数と の和が11の倍数にある説明を 完成させる ・2桁の自然数と、その十の位 と一の位の数を代入した数と の差について予想した事柄を 説明する ・2つの線分の長さが等しいこ とを、三角形の合同を利用して説 明する ・表やグラフをもとに、富士山の 6合目の気温を求める方法を説 明する

4 本市における取組課題

「集計結果にみられる解答状況」及び「教科に関する調査結果」等の内容から総合的に判断し、本市における今後の具体的取組として、次の内容を指摘することができる。各小中学校における今後の取組課題のひとつとして位置付け、指導方法の工夫・改善につなげていきたい。

(1) 国語(A問題に関して)

ア 身につけた知識・技能を表現や理解に役立て、実際の言語活動を通して、定着させていく指導の展開を図る。

【 具体的な指導課題 】

- (ア) 漢字については、漢字についての知識をもつことや、日常生活で使用する事への興味と関心を高めながら、確実な定着を図る。
- (イ) 相手意識や目的意識を明確にした言語活動の指導を重視する。
- (ウ) 目的に応じて必要な情報を収集する力や収集した情報を基に論理的に思考し表現する力を身につける指導を重視する。

国語(B問題に関して)

イ より具体的な場面を想定しながら、基礎的・基本的知識を活用して課題を探究していく指導の展開を図る。

【 具体的な指導課題 】

- (ア) 「読んだものについて評価したり自分の意見を書いたりする」といったような三領域相互の関連を図った指導を重視する。
- (イ) 様々な言語活動を通して、論理的な思考力・表現力を高める指導を重視する。

(2) 算数・数学(A問題に関して)

ア 算数的、数学的活動を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、算数、数学に関する関心・意欲を高める指導法の工夫を図る。

【 具体的な指導課題 】

- (ア) 数と式における基礎計算力の充実。
- (イ) 日常生活の事象と算数的、数学的活動を関連づけた授業の工夫。
- (ウ) 具体的な作業を通して、感覚的に数量関係や図形の性質を理解できる授業の工夫。

算数・数学(B問題に関して)

イ 習得した知識を、算数的、数学的活動を通して活用する力を養うとともに、数学的な見方考え方を培うための探究的な活動を取り入れた授業の工夫を図る。

【 具体的な指導課題 】

- (ア) 問題解決のために必要な情報を選択し、活用する力をつけるための学習活動の工夫。
- (イ) 既知の学習内容を活用して、新しい学習内容を自ら理解、探究する学習活動の工夫。
- (ウ) 自分が理解した内容を、相手に理解できるように言葉で表現、説明する学習活動の工夫。

5 児童生徒質問紙の結果

○学習に対する関心・意欲・態度

「国語の学習は好きですか」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計値が小学校では全国及び県の結果よりも高くなっているが、中学校では全国及び県の結果より低くなっている。「算数・数学は好きですか」については、「当てはまる」の値が、小中学校ともに全国及び県の結果よりも高くなっている。

「授業の内容はよく分かりますか」については、「当てはまる」の値が小学校では国語・算数ともに全国及び県の結果より高くなっているが、中学校国語では県の結果よりも低くなっている。

「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、小中学校ともに全国及び県の結果と同様の内容であるが、算数・数学では「当てはまる」の値が低い結果となっている。

「数学ができるようになりたいと思いますか」についても、「当てはまる」の値が全国及び県の結果より低くなっている。「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計値が、全国及び県の結果より高くなっている。

○学習時間等

「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」については、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」の合計値が、小中学校ともに全国及び県の結果より高くなっている。「全くしない」は、ほぼ全国及び県と同様であるが、中学校の方が低い値となっている。

「土曜日や日曜日など」については、小学校では「4時間以上」、中学校では「2時間以上、3時間より少ない」が高い値となっている。

「家で学校の宿題、授業の予習、授業の復習をしていますか」については、「当てはまる」の値が「宿題」は全国及び県と同様に高い結果となっているが、「予習」「復習」については全国及び県と同様に低い結果であり、特に「復習」についてが低い結果となっている。

「1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」については、ほぼ全国及び県と同様の結果であるが、小中学校ともに「10分以上、30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」の値が高く、「全くしない」の値が全国及び県の結果より低くなっている。

○学習塾

「学習塾に通っていない」の値が、全国及び県の結果より低くなっている。学習塾に通っている児童生徒の中で、「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」が、特に小学校では全国及び県の結果よりも高く、大きな割合を占めている。

中学校では、「進んだ内容や難しい内容を勉強している」が高い結果であるが、それ以上に「進んだ内容や難しい内容と、学校の勉強でよく分からなかった内容の両方を勉強している」が大きな割合を占めている。

○携帯電話・ゲーム・インターネット等

携帯電話の保有率は、小学校では約45%、中学校では約75%であり、携帯電話による通話やメールを「ほぼ毎日している」「時々している」の合計値が、小中学校ともに全国の結果よりも高くなっている。

「1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」については、「全くしない」が小学校では約50%、中学校では約30%であり、「インターネットをしている」児童生徒の中で、「1時間より少ない」が大きな割合を占めている。

テレビゲームについては、ほぼ全国及び県と同様の結果であるが、小中学校ともに「1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」が大きな割合を占めている。

○自尊心・規範意識等

「自分には、よいところがありますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計値が、全国及び県と同様に小学校では約70%、中学校では約60%であるが、中学校において「当てはまる」の値が、低い結果となっている。「当てはまらない」が、小中学校ともに約10%となっている。

「将来の夢や目標を持っていますか」については、ほぼ全国及び県と同様の結果である。

「学校のきまり・規則を守っていますか」「友達との約束を守っていますか」については、小中学校ともに全国及び県の結果よりも「当てはまる」が低く、「どちらかといえば、当てはまらない」が高い結果となっている。

○人とのかかわり

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」については、ほぼ全国及び県と同様の結果であるが、中学校では「当てはまる」の値が、全国及び県より低くなっている。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、小中学校ともに、「当てはまる」の値が全国及び県の結果よりも低くなっている。中学校では、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の合計値が約15%となっている。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、ほぼ全国及び県と同様の結果であるが、中学校では「当てはまる」が低くなっている。

○地域について

「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計値が、小中学校ともに全国及び県の結果より高くなっている。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計値が低くなっている。

○生活体験について

「海、山、湖、川などで遊んだこと、自然のすばらしさを感じたことがありますか」「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがありますか」「困っている人の手助けをしたことがありますか」等については、小中学校ともにほぼ全国及び県と同様の結果であるが、小学校では「何度もある」の値が高くなっている。

6 教科に関する調査結果

(1) 小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A 主として「知識」に関する問題

- ・ 基礎的言語活動や言語事項に関する知識・技能が身につけているかどうかをみる問題が出題されている。身に付けておかなければ後の学年内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを内容としている。
- ・ スピーチの組み立ての工夫をとらえる。(話・聞)
- ・ 下書きの文章と発表原稿とを比べ、発表しやすく工夫したところをとらえる。(話・聞)
- ・ 言葉の使い方について調べ、結果から考えたことを明確に書く。(書、言)
- ・ 目的や課題に即して、資料から分かったことをメモに取る。(書)
- ・ 文章の内容に合わせて、小見出しを書く。(書、言)
- ・ 文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する。(書、言)
- ・ 目的や意図に応じて、段落の内容をとらえる。(読)
- ・ 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする。(言)
- ・ 文脈における意味を考えながら、同音異義や同訓異義の漢字を使い分ける。(言)

国語B 主として「活用」に関する問題

- ・ 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容となっている。
- ・ 相手や目的、状況に応じた内容を取り上げ、適切な言葉遣いで話す。(話・聞、書)
- ・ 読んだ本の内容を紹介するために、登場人物の特徴、心情や場面についての描写をとらえる。(書、読)
- ・ 資料から必要な情報を取り出して、自分の考えを明確にしながらか読んだり書いたりする。(書、読)
- ・ 意見文を書くために、二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえる。(書、読)

○課題等 □相当数ができている ■課題がある

話すこと・聞くこと

- 相当数の児童が、スピーチの内容と要約した内容を結びつけ、全体の組み立てをとらえることができている。
- 相当数の児童が、質問する内容や順序を考えることや相手に応じた丁寧な言葉遣いで話すことを理解しているが、相手の意図を考え、反応しながら話の内容を聞くことに課題がある。

書くこと

- 文の構成や表現の効果を確かめ、推敲するために必要な事柄を指摘することに課題がある。
- グラフなどの資料がどのような項目で構成されているか理解した上で、得ようとする観点や内容に即して情報を正しく読み取り、分かったことを的確に書くことに課題がある。

- 案内状の題名といった所定の形式に応じて必要な情報を整理して書くことに課題がある。

読むこと

- 相当数の児童が文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読もうとしている。
- 相当数の児童が、物語の冒頭部分における登場人物の特徴を一つ一つ整理することができている。
- 目的や意図に応じて段落の内容をとらえることに課題がある。
- 設定をおさえ、目的に応じて資料が必要な情報を正しく取り出して整理することに課題がある。
- 意見文における冒頭部分と結びとが呼応する文章の組み立てをとらえることに課題がある。

言語事項

- 相当数の児童が、新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている。
- 漢字の読みは、相当数の児童が理解しているが、今回出題された送り仮名のある漢字を読むことについては、課題が見られる。また、読みに比べると、書きに課題がある。
- 前後の語句や文のつながりを考えて、同音異義や同訓異義の漢字を使い分けることに課題がある。

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- インタビューにおいては、準備した内容を計画的に最後まで聞き取っていくことが大切である。一方、話し手の意図を考えながら、話の内容に反応を示したり、質問の内容を深めたりして聞くことも求められる。
国語をはじめとして各教科、総合的な学習の時間、特別活動などとの関連を図ることが必要である。目的を明確にした様々な学習活動の中で、年齢や立場の異なる相手に話したり、相手の話を聞いたりする機会を意図的、計画的に設定し、聞くことの活動や経験を重ねることが重要である。
また、学習のまとめにあたっては、話したことや聞いたことを振り返り、よかったことや改善すべきことなどを明らかにし、次の活動を生かしていく評価活動の充実を図ることが重要である。

書くこと

- 文章を推敲するには、目的に応じて観点を設定し指導することが重要である。
言語事項に関する推敲の観点は、「句読点」「段落の始め」「会話の部分の改行」「修飾や被修飾との関係」、「文と文のつながり」があげられる。
また、書くことの能力に関する推敲の観点としては、「取り上げた内容の妥当性」「冒頭と結びとの一貫性」「表現のよさや効果」などを確かめることも求められる。また、言葉のリズムや響きをはじめ、語や文、文章の表現の効果について工夫する指導については、全学年を通じて積み重ねていくことが必要である。言葉の正しさや美しさだけでなく、文脈の中において語句や文の一つ一つが必要であるか、あるいは適切であるかなどを感じ取ることも大切である。
- 意見文を書くときには、冒頭部分に何を書くのか、具体的な事例をどのように配置するのか、それを自分の意見とどのように関係付けるのかなど、意見文の組み立てを工夫することが必要である。
また、客観的な事実や事例と感想や意見とを区別しながら、それらの関係をとらえて書く指導が大切である。特に、冒頭部分結びの呼応についての指導を重視することが大切である。
さらに、書き出しや結びの表現などを工夫する指導も重要である。

- 目的に応じて資料から情報を正しく取り出した上で、テーマや記録、報告、説明、感想、案内状などの多様な様式や書式など、設定された条件に合わせて書く指導が必要である。そのためには、自分の立場や主張を明確にした上で、その根拠としての数値や事例などの正しく引用して書いたり、必要な情報を書き換えたりする言語活動を充実させることが大切である。

読むこと

- 調べたことを書く資料として、文章で表された新聞や雑誌、パンフレットなどだけでなく、図表やグラフなどの非連続型テキストを取り上げ、示された観点に即して的確に読み取ったり、様々な文章と関連付けたりして読む力を育むことが大切である。
- 文脈に即し内容を読むためには、語句と語句、文と文、段落と段落との関係を押さえることが大切である。中でも、語句と語句との関係をとらえるためには、重要な語句や中心となる語句が文脈の中でどのように表現を変えているかを丁寧に読み取るなど、文章の中での語句の意味や役割について指導することが重要である。また、事実と感想、意見などの関係を押さえるための接続語や文末表現などに着目させることも必要である。

さらに、段落と段落の関係をとらえるためには、段落の冒頭に置かれている語句や文に着目するとともに、文の集合としてそれぞれの段落の意見のまとまりをとらえることが大切である。そして、段落との相互関係、文章全体の関係を押さえながら要旨を把握できるような段階的かつ重点的な指導が必要である。

言語事項

- 漢字の読み書き、同音同訓の使い分けについては、文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年までに学習した漢字をさらに意識して使ったりする習慣をつけるように指導することが大切である。国語辞典や漢字字典を積極的に活用し、意味の違いや用法を正しく理解し、的確に使えるようにする指導が大切である。

○引き続き課題と考えられる内容(昨年度の課題等の内容から)

話すこと・聞くこと

聞き手の反応を確かめながら、話し方を調整する知識や技能の習得をする。

書くこと

自分の考えを決められた表現様式などに即して書き換える。

読むこと

読み取ったことを自分の考えとしてまとめていく。

言語事項

当該学年までに配当されている漢字を正しく書く。

言葉の意味を考え、それを適切に使う。

(2) 小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(主として「知識」に関する問題)。

- ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能の習得状況が計れる内容

算数B

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(主として「活用」に関する問題)。

- ・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価、改善する力などにかかわる内容

○課題等 □相当数ができている ■課題がある

数と計算

□(A) 整数、小数の四則計算は、相当数の児童ができています。

■(A) 四則計算では、誤答例以外の解答が多いことから、筆算の理解に課題がある。

■(A) 分数の意味、表し方の理解に課題がある。

□(A) 整数倍になるものの理解はできている

■(A) 何倍かを求めるために、小数倍、分数倍の意味理解に課題がある。特に基準量よりも比較量の小さい場面で顕著である。

■(B) 情報を整理・選択して筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述することに課題がある。

量と測定

□(A) 基本的な平面図形の面積の求め方は相当数の児童が理解できている。

■(A) 重さや面積についての具体的な感覚を身に付けることに課題がある。

■(A) 単位の理解はできているが、実体験としての感覚に課題がある。

図形

■(A) 基本的な平面図形の定義や性質を基に、図形をとらえることに課題がある。

□(B) 身の回りの事象を観察して図形を見いだすことは、相当数の児童ができています。

■(B) 基本的な図形の定義や性質を基に、面積の関係を図形を変えて発展的に考える場面で、判断の理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

数量関係

□(A) 円グラフを読むことは、相当数の児童ができている。

■(A) 百分率の意味についての理解に課題がある。

□(B) 棒グラフや円グラフのそれぞれの特徴から数値を読み取ることは、相当数の児童が理解できている

■(B) 2つのグラフの関連を理解し、求めたいものに必要な情報を選択することに課題がある。

■(B) グラフの特徴を基に表されている内容を読み取り、違いを言葉や数を用いて記述することに課題がある。

○指導改善のポイント

数と計算

○ 基礎的計算力の向上と定着させる指導の重視

・2位数以上の四則計算は、大部分の児童が筆算により計算をしている。筆算を丁寧に扱い、小数の計算や分数の表し方、計算の順序等もあわせて考えさせることが大切である。

○ 数量を数直線や線分図に表す活動の充実

・除法の意味を理解するために、基準量、比較量、割合(倍)を数直線や線分図に表して数量の関係をとらえられるようにしたい。特に、割合(倍)が1より小さくなる場合の数量の関係を丁寧に扱うことが大切である。実生活の事象を取り入れて、1より小さい数をかけることの意味理解につなげたい。

量と測定

○ 重さや面積についての感覚を豊かにする指導の重視

・基本的な量の大きさについての感覚を豊かにすることが大切である。重さについては、実際に様々な具体物の重さを測定して1kgの重さを見つけたり、粘や砂などで1kgの重さを作ったりする活動を取り入れることが考えられる。また、日常生活での児童の体験等を踏まえて、量に関する様々な学習場面を通し、まず測定値を予想してから測定するなど重さの見当付けができるようにすることも考えられる。

・面積については、面積を求める公式の理解の定着を図るだけでなく、面積についての豊かな感覚を身につけられるようにすることが重要である。日常場面のような発展的な場面において、基本的な図形の組み合わせとを考えたり、その性質を基に考えようとする姿勢を養いたい。

図形

○ 図形の定義や性質を基に図形を弁別し、その根拠を説明したりする活動の充実

・図形を弁別するときには、その図形の定義や性質を明確にしておく必要である。ひし形や直角三角形、正三角形、円や正方形等の基本的な図形についての性質を、実際に作図や折紙等で作成するなどの活動を通して理解することが大切である。

○ 図形の性質を基に面積を考えるなど、複数の領域の内容を関連づけた指導の重視

・領域間のかかわりを柔軟にとらえ、「図形」と「量と測定」など複数の領域の内容を関連付けた指導を重視することが大切である。

数量関係

○ 百分率の意味や割合の考えを理解できるようにする指導の重視

・百分率を用いて数量を計算して求めるだけでなく、資料に示された情報から、必要な情報を選択して問題を解決できるようにする指導を重視することが大切である。

・基準量が異なる二つの場面を基に、割合が同じであっても比較量が異なる場合について考える活動場面が必要である。その中から、基準量、比較量、割合の関係を理解させることが大切である。

- グラフにある情報を見つけだし、その内容を整理して説明できるようにする指導の重視
 - ・基本的なグラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等々)から、どんな情報が得られるかを発表させる活動を通し、グラフからの情報収集の方法を見だし、その根拠を説明できるようにすることが大切である。
- 複数のグラフを比較して、関連性や相違点を説明する活動の充実
 - ・複数のグラフが示された場面で、相違点等を説明するためには、グラフの特徴を基にして表されている内容を読み取り、説明する対象を明確にして述べる必要がある。何をどのように説明すべきかを意識できるように、発表や説明をする活動の充実を図ることが大切である。

○引き続き課題と考えられる内容

算数A

計算式に分数の混じるものの正答率は、昨年に比べ5%ほど低くなっている。表し方や概念の再確認が必要と思われる。図形に関する問題は、昨年度と情報量が違うために、数値を比べるだけでは比較ができない。しかし、学習内容(面積や量)と日常にある物等が、体験的につながらないためか、**A6**のような問題にまずまっている。活用力向上のためにも、実体験を通しての基礎学力定着が課題と思われる。

算数B

日常の中で基本的な図形を探すことはできても、それを数量の分野で発展させて活用する力は身につけていない。また、グラフや表を一つひとつ見ることはできても、二つ以上になると、関連性を見つけ出す力がついていない。複数の表を、関連づけて考えられるようになることが課題である。

(3) 中学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- ・ インタビューの展開に即した質問を書く。(話・聞、書)
- ・ 意見文に対する評価として適切なものを選択する。(読)
- ・ 記述の一部を、文章中の他の言葉を使って書き換える。(読、書)
- ・ 国語辞典で調べたことをもとに、慣用句の意味を書く。(書、言)

国語B

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- ・ 新しい情報を読み、古い情報を条件にしたかつて書き換える。(読、書)
- ・ 登場人物が大切にしていると考えられることを四字熟語と関連づけて書く。(書、言)
- ・ 「全然」の使い方に付いての自分の考えを根拠を明らかにして書く。(書、言)

○課題等 □相当数ができている ■課題がある

話すこと・聞くこと

□(A) 話し合いの方向をとらえて、適切な発言をすること、インタビューの展開を考えて、適切な質問をすることは相当数の生徒ができている。

書くこと

■(A) 論理の展開に着目し、評価・批評することに課題がある。

■(B) 資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるようにして書くことに課題がある。

読むこと

□(A) 文章の展開をおさえながら中心的な内容を考えることは相当数の生徒ができている。

□(A) 古文の中の文のまとまりをつかむこと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは相当数の生徒ができている。

□(B) 文章の内容を正確にとらえることは相当数の生徒ができている。

□(B) 文章が書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえることは相当数の生徒ができている。

□(B) 登場人物の人間関係を整理することや、心情をとらえることは、相当数の生徒ができている。

□(B) レポートの特徴や工夫をとらえることは相当数の生徒ができている。

■(A) 論理の展開の仕方に即して、内容を読み取ることに課題がある。

言語事項

□(A) 文脈に即して漢字を正しく書くことと読むことは相当数の生徒ができています。

□(A) 語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うことは相当数の生徒ができています。

□(A) 漢字の楷書と行書の違いを理解することは相当数の生徒ができています。

■(A) 配列・配置に注意して書くことに課題がある。

■(A) 辞書を活用して、漢字のもつ意味を正しくとらえたり、慣用句の意味を適切に書いたりすることに課題がある。

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○ 目的に沿って話したり、話し手の意図などを適切に聞き取ったりする言語活動の継続

- ・ 目的に沿って効果的に話し合う力を身に付けるために、話合いの目的と自他の発言との関連を考えさせる必要がある。また、よりよい解決を図るための話合いであったかなど、話合いの過程を振り返らせることも大切である。
- ・ 話し手の意図などをとらえながら適切に聞き取る力を身に付けるために、インタビューの中で相手の発言に応じて質問するなど、具体的な言語活動を通して知識・技能の定着を図ることを今後とも重視することが大切である。

書くこと

○ 書いた文章の推敲や互いの文章の評価・批評などを取り入れた言語活動の充実

- ・ 説得力のある分かりやすい文章を書く能力を身に付けるために、書いた文章を読み返す機会を学習の中に位置付けて、推敲の習慣化を図ることが重要である。また、評価するための視点を明らかにしてお互いの文章を読み合い、意見や助言を述べ合わせることも大切である。
- 収集した情報をよりの確に整理し、目的に応じて書く言語活動の充実
- ・ 情報を整理し目的に応じて書く能力を身に付けるために、取り上げた課題や考慮すべき条件などを踏まえ、より適切な文章となるよう指導することが必要である。
 - ・ 根拠を明らかにして書く力や説得力のある文章を書く力を高めるために、図表やグラフを用いるなどの工夫をさせることも大切である。

読むこと

○ 文章の展開に即して内容を読み取る言語活動の充実

- ・ 文学的な文章を読んで、展開に即しておおよその内容をとらえたり、中心的な内容をとらえたりする指導を工夫することが大切である。また、古典を指導する際には、現代語訳などを適切に用いて、作品に表れたものの見方や考え方の理解を深めさせることも必要である。
- 様々な文章を的確に読み取り、読んだ内容や表現を活用する言語活動の工夫
- ・ 本、新聞、雑誌など、様々な文章を内容や構成、表現に注意しながら的確に読み取るよう指導する必要がある。その際、目的に応じて情報を取捨選択しながら読ませることも重要である。
 - ・ 収集した情報を効果的に活用する力を身に付けためには、複数の資料を比較して、目的に応じて情報を整理させることが大切である。その上で、自分の考えをまとめたり、必要な情報を自分の表現に役立

てたりするなど、多様な言語活動に取り組ませることが大切である。

言語事項

○ 言語への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫

- ・ 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、国語辞典や漢和辞典を使用する機会を意図的に設けることが必要である。その上で、調べたことを話す・聞く、書く・読むという言語活動に生かしていくようにすることが重要である。

○引き続き課題と考えられる内容

話すこと・聞くこと

目的に沿って話したり、話し手の意図などを適切に聞き取ったりすること。

書くこと

論理の展開に着目し、評価・批評すること。

資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるようにして書くこと。

読むこと

論理の展開の仕方に即して、内容を読み取ること。

言語事項

配列・配置に注意して書くこと。

辞書を活用して、漢字のもつ意味を正しくとらえたり、慣用句の意味を適切に書いたりすること。

(4) 中学校 数学

○調査問題の趣旨・内容

数学A

【問題作成の基本理念】……1. 調査の概要 (3)調査事項及び手法 から

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心に作成。

【問題作成の構成】……設問別調査結果 分類・区分別集計結果 から

I 領域 「数と式」→12問、「図形」→12問、「数量関係」→12問

※対象設問数は数学Aで全36問

II 評価の観点 「数学への関心・意欲・態度」→0問、「数学的な見方や考え方」→0問、「数学的な表現・処理」→17問、「数量、図形などについての知識・理解」→19問

III 調査内容 学習指導要領の学習内容(小学校6学年、中学校1学年、中学校2学年)

- ・整数、小数、分数等の四則計算をすること
- ・身の回りにある量の単位と測定が分かること
- ・図形の性質がわかること
- ・数量の関係を表すこと
- ・変化の様子を調べること
- ・確率の意味を理解し確率を求めること など……解説資料

IV 問題形式 「選択式」→16問、「短答式」→20問、「記述式」→0問

数学B

【問題作成の基本理念】

- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)を中心に作成。

【問題作成の構成】

I 領域 「数と式」→3問、「図形」→3問、「数量関係」→9問、

※対象設問数は数学Bで全15問

II 評価の観点 「数学への関心・意欲・態度」→0問、「数学的な見方や考え方」→13問、「数学的な表現・処理」→2問、「数量、図形などについての知識・理解」→0問、

III 調査内容

- ・物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること
- ・与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること
- ・筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること
- ・事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること など

IV 問題形式 「選択式」→5問、「短答式」→4問、「記述式」→6問(事実を説明→1問、方法や手順を説明→2問、理由を説明→3問)

○課題等 □よい状況であるもの ■課題がある

数と式

- (A) 分数の計算、文字式の計算、一次方程式や連立方程式を解く問題、正の数と負の数の意味を理解する問題、式の値を求める問題は相当数がよくできている。
- (B) 二桁の自然数で、十の位と一の位の数を入れ替えた数の和を具体的な数の式で表す問題は相当数がよくできている。
- (A)(B) すべての問題で全国の状況よりも良い結果である。
- (A) 文字式の意味を具体的な事象と関連付けてよみとる問題に課題がある。
- (A) 数量の関係をとらえ、一元一次方程式を立式する問題の無回答率は数と式の領域内では一番高かった。(短答式)
- (B) その事柄が成り立つ理由を示された方針にもとづいて説明する文字式の証明問題に課題がある。

図形

- (A) 1組の平行線に直線が交わってできる角の性質を理解しているかを見る問題、証明で用いられている平行線の性質を理解しているかを見る問題は、相当数がよくできている。
- (B) 証明の方針を立てる際に根拠となる事柄を筋道を立てて考える問題や証明を振り返ることで証明したこと以外に新しくわかることを選ぶ問題は、相当数がよくできている。
- (A)(B) すべての問題で全国の状況よりも良い結果である。
- (A) 垂線の作図方法を図形の対象性に着目して見直すこと、円錐の体積を底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係から理解すること、 n 角形の内角の和を求める公式の意味について理解することに課題がある。

数量関係

- (A) グラフ上の点の座標の表し方を理解しているかを見る問題や事象の起こりうる確率を求める問題は、相当数がよくできている。
- (B) 数量関係の情報を読み取り、的確に処理する問題やどのような二つの数量関係が利用されているかを明らかにする問題は、相当数がよくできている。
- (A)(B) すべての問題で全国の状況よりも良い結果である。
- (A) 一次関数の表から式を求める問題に課題がある。
- (A) 反比例のグラフから、 X と Y の関係を $y = a/x$ の式に表す問題に課題があり、無回答率は全体の領域内で一番高かった。(短答式)
- (B) 事象を理想化・単純化して数学的な意味を考える問題、事象を数学的な表現を用いて説明する問題や問題の解決方法を数学的に説明する問題に課題がある。

○指導改善のポイント

数と式

- 文字式が表す意味を事象に即して理解する活動を重視
文字式が表す意味を具体的な事象に即して言葉や図で表すことを通して理解し、さらに文章読解力を高める活動を一層重視することが大切である。また、数量の関係を文字式で表現したり、文字

式をよんだりする活動を大切にする。

- 理由を説明するために何を示せばよいかを見通す活動の充実

整数の性質など事柄が成り立つ理由を説明するために、具体的な例を調べることを通して説明の見通しをもち、結論を導くために必要な根拠が何かを明らかにする活動を充実させることが大切である。

図形

- 作図を対称性に着目して見直し、根拠にもとづいて確かめる活動を重視

作図の方法を図形の対称性に着目して見直したり、作図されたものを根拠にもとづいて確かめたりする活動を一層重視することが大切である。

- 空間図形に対する直観的な見方や考え方を深めるための観察、操作や実験の活動の重視

模型作りやコンピューターを利用したりして、様々な角度から立体を観察したり、単に知識として覚えるのではなく、実感を伴って理解できるように操作や観察などの活動を取り入れることが大切である。

- 方針を立て、方針にもとづいて証明を書く活動の充実

証明を書く前に方針を立てる活動、提示された方針をよみとる活動、方針にもとづいて証明を書く活動を充実させることが大切である。

数量関係

- 反比例や一次関数の関係を式に表す活動の重視

与えられたグラフから座標をよみとって表を作り、表から関数の特徴を見出して式を作るなど、表、式、グラフを関連付ける活動を一層重視することが大切である。

- 数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりする活動の充実

問題解決に数学を活用するために、言葉で表現された事柄の意味を数学的に解釈する活動や、数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして数学的に解釈する活動を充実させることが大切である。

- 日常的な事象で成り立つ事柄を一次関数を用いて解釈し説明する活動の充実

日常的な事象で成り立つ事柄について、具体的な数の場合を調べ、表やグラフに表すことなどを通して、一次関数とみなし、それにもとづいて事柄が成り立つ理由を説明する活動を充実させることが大切である。

日常的な事象を数学的に解釈し、表やグラフに表し、その結果から数量の関係をどんな関数に表すかを考え、その関数関係にもとづいて測定されていない数値を推測する方法を説明する活動を充実させることが大切である。

○引き続き課題と考えられる内容

全国と比較するとすべての領域、問題で正答率が上回っているのに、引き続きに課題と考えられる内容については、本市の結果の中で、他の問題と比較して課題と考えられるものをあげた。

数学A

「数と式」の領域では、さらに基礎計算力の充実を図り、文字式の意味を具体的な事象と関連付けてその意味を読み取ること、「図形」の領域では、基本的な図形を見通しを持って作図する方法を平面図形の性質に着目して理解すること、図形を観察、操作や実験を通して考察し、空間図形についての理解を深めること、「数量関係」の領域では、反比例のグラフから X と Y の関係を式に表すこと、一次関数の表から X と Y の関係を式に表すことなどに課題があると考えられる。

数学B

「数と式」の領域では、事柄が成り立つ理由を示された方針にもとづいて説明することや、「数量関係」の領域では、事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することや事象を理想化・単純化してとらえ、言葉で表現された事柄の数学的な意味を考えること、事象の意味を数学的に解釈し、問題の解決方法を数学的に説明することなどに課題があると考えられる。

7 まとめ(今後にむけて)

前回調査では、神奈川県ของ学力検証改善委員会の分析結果を参考にして本市の結果分析を実施した。今回は、神奈川県において学力検証改善委員会は設置されず、特段の調査結果分析が行われないため、本市としては国立教育政策研究所の分析資料を参考にしながら、本市独自の調査結果分析を行うこととした。鎌倉市学校教育研究会教科部会の協力を得て、鎌倉市教育センター及び教育指導課を構成員とする「全国学力・学習状況調査結果分析委員会」を組織し、全国及び神奈川県の状況との関係において本市の結果分析を行った。

学力調査における本市全体の集計結果は、小中学校のすべての調査教科において全国及び神奈川県の平均正答率を上回っており、前回調査と同様により結果となっている。学習指導要領の領域別正答率、各教科の評価の観点別正答率においても、小中学校すべての項目において全国及び神奈川県の結果を上回っている。但し、本調査によって得られた結果は、学力の特定の一部分であり、平均正答率の比較を行うことだけでは本市の教育課題を把握することには至らない。各教科の調査結果分析にまとめられた課題及び指導改善のポイント等を参考にしながら、引き続き各校においても検討を行う必要がある。

各校における今後の指導改善の参考に資するため、今回の調査分析においても「本市における取組課題」として、国語及び算数・数学あわせて11項目の具体的な指導課題を提示することとした。また、今回の報告書では、全国及び神奈川県の状況との関係を比較する資料として、正答率の比較グラフ、正答状況が低い設問及び無解答率の高い設問の概要も併せて記載することとした。

学習状況調査(質問紙調査)の回答集計結果は、前回同様に「学習に対する関心・意欲・態度」「学習時間」「自尊感情・規範意識」「人とのかかわり」等の項目について、全国及び神奈川県の回答結果との比較によりまとめることとした。全体的な結果は、ほぼ前回調査と同様の内容であるが、「自尊感情・規範意識」「人とのかかわり」等の項目では、前回調査とは異なる傾向をみることができる。調査対象者が異なることは当然配慮すべきであるが、本市教育センターが実施している「かまくらっ子調査」等の結果との比較分析を行い、今後も本市児童生徒の学習状況を把握していく必要がある。

本調査の目的が、「児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、本市の学校教育の成果と課題を検証し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善に役立てることにある」ということに鑑みたとき、前回及び今回の本市全体の調査分析と各校における調査分析を活かした取組を、各校が今後の教育指導の中で実践していくことが何より重要である。

本市としては、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することを今後も継続していく必要があると考える。その具体的な方法については、2年間の全国学力・学習状況調査によりほぼ同様の結果が得られていること、神奈川県の学習状況調査の継続参加を行っていることを踏まえて、より有効な方法を今後も検討していくことが重要であると考ええる。